

ボードゲーム

おうち時間を楽しむアイテムとしてすっかり定番となったボードゲーム。年齢問わず遊べることに加え、知育教材としても評価が高く、図書館でも過去にボードゲームを遊ぶイベントが行われましたが、今年も6月に開催が決定！ 今回の「まゆなか」では、ボードゲームの歴史を紐解きながら、実際に図書館員が遊んでみました。



イソップ童話飛双六（東京学芸大学附属図書館所蔵）

日本においてもっとも古いボードゲームは双六（すごろく）とされ、さいころを振って出た目の数だけ升目にある駒を動かす遊び方は、現在の双六とほとんど変わりありません。『源氏物語』や『枕草子』に登場することから、平安時代にはすでに遊びとして普及していたと考えられています。その頃は「盤双六」という二人で対戦するもので、囲碁盤に似た木製の盤と、白と黒の駒、振り筒、サイコロなどを用いる貴族の遊びでした。けれど江戸時代へ入って庶民のあいだにも広まると、升目のような絵が描かれた紙を使用した「絵双六（紙双六）」が主流となり、人数も複数で遊ぶものとなりました。絵柄や種類も様々で、鮮やかな色で刷られたものは特に人気がありました。

↑中にはこんなに可愛い絵双六も！



起源は古く、古代エジプトの遺跡で発見された「セネト」というボードゲームだと言われています。そこから古代ローマ、エジプトやギリシャを経由し、ヨーロッパやアジアへと普及し、双六や西洋双六（バックギャモン）へと形を変えていきました。名前の由来ですが、盤上の升目や印が一行に十二あるところから、二つの六……双六（双六）となり、更に中国の「雙陸（すごろく）」が訛って「すごろく」となった、と言われています。

昭和の高度成長期に入り、テレビやマンガ雑誌が隆盛してくると、それに関連したボードゲームが次々と発売されるようになります。今や定番となった「人生ゲーム」や「オセロ」、「モノポリー」が登場したのもこの頃です。また、古代から中世においては賭博の意味合いも多く含まれていたボードゲームですが、そういった運によって左右する要素を減らし、遊び手の知識や経験を駆使して戦う頭脳ゲームも多くなっていきました。そして今も、次々と新しいボードゲームが生まれ続けています。

図書館員が遊んでみた

右側でお伝えした通り、一言でボードゲームといっても種類は様々。数分で終わる簡単なゲームから、中には1時間以上かかる大作も……！ 「モノポリーと人生ゲーム以外知りません！」というスタッフも結構います。じゃあ実際に触れてみよう！ということで、さいたま市でボードゲームが遊べるカフェ「JELLY JELLY CAFE」へお邪魔してきました。

JELLY JELLY CAFE

世界中のボードゲームを自由に選んで遊べるカフェです。ゲームのルールがわからなくても、店員の方が丁寧に説明してくれますので、興味はあるけど遊んだことないな、という初心者の方にもおすすめです。「JELLY JELLY CAFE」の場合、

- ・営業時間 午後13時〜23時
- ・1ドリンク付き5時間制（10時間遊べるバックもありです）

となっていますので、学生や社会人の方でもたっぷり楽しめます！



JELLY JELLY CAFE 大宮店

TEL 330-0802

さいたま市大宮区宮町4丁目4 花のシママラビル 2階

048-788-4399

遊んでみたゲーム

その他にも、面白そうなゲームをたくさん紹介していただきました！

マイシェルフィー



広辞苑かるた



ウェーブレングス



ドメモ



ファウナ

見えている数字や対戦者の発言から、自分が持っている見えない数字を推理して当てるゲーム。1は1枚、2は2枚、と1~7まで数字と同じ数だけ存在します。シンプルですが意外と記憶力が試されます。「3は全部出てるから……4?」「違いますねえ（にやにや）」「あれ、さっき自分が言った数字を忘れちゃった…」準備も片付けも簡単なので、大人から子どもまで手軽に遊べます。

2~5人用/時間：約10分/発売元：クロノス

カードに描かれた動物の絵と名前を見て、生息地、体長、体重、尻尾の長さを推測し、正解の点数を競うゲーム。動物の種類は360種類とかなり豊富です…！今回出されたお題は【ヤマビーバー】でした。「ビーバーなのにヤマって何!?!」「尻尾は体長に含まれますか?」「絵だから大きさが全くわからない…」知らない動物に困惑するスタッフたち。終わった後に図鑑を開いて調べてみるのも楽しそうです。

2~6人用/時間：約45~60分/発売元：ホビージャパン



店内に入ってもまず目に飛び込んでくるのは、壁一面にずらりと並んだボードゲームです。その数なんと500種類以上！ボードゲーム好きのテンションは一気に上がり、他のスタッフからも「こんなにあるんだ!」と歓声が上がります。ちなみに、難しくかたり時間がかかったり、ゲームの重さ、その反対を軽くと呼ぶんだとか。今回はその中から「図書館に置くならどんなボードゲームが向いていると思いますか?」という質問に対して選んでもらったゲームを実際に選

ボードゲームの魅力とは?

友だちがすぐできるという

プライベートな話はしなくても、ゲームを通じて仲良くなれた気がする。名前を覚えていなくても、この人とこのゲームで遊んだな、という思い出は残る。そうやって名前も年齢も関係なく、みんな楽しんで、大人になっても友だちができるところが、ボードゲームの魅力のひとつだと思います。

時間を忘れて楽しめる

お店で遊んでいて「5時間（※お店は1ドリンク付き5時間制）スマホ触ってなかった!」と驚く方もいます。デジタルから離れて遊びたい方にもおすすめです。みんなを顔を含ませて、お酒なしでも遊ぶ、というのはあまりないので、そういうことができるのが良さのひとつですね。

年齢に関係なく、対等に遊べる

運やアクション要素が絡んでくると、子供も大人も関係なく一緒に遊んで盛り上がりがあります。ルールも自分たちで工夫できるので、今回はこんな風になろう、と変えながら遊べるところが、デジタルにはないアナログゲームならではの良さだと思います。84歳になる祖母がいるんですけど、私と祖母、それから私と同じ歳のお客様と相席で遊んだこともあるんですよ。

笑うことで健康にも!

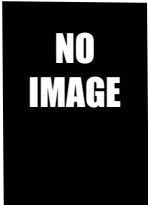
爆笑が生まれることもあるので、お客様の中には久しぶりにこんな風に笑った、という方もいらっしゃいます。笑いが健康に繋がるとも言えますし、そういう点でも良いな、と。記憶力や反射神経を使うゲームもあるので脳トレや手指の運動にもなりますし、学校や図書館だけでなく、老人ホームでもできるんじゃないかなあ。

塚田さんのイチオシ本!



『キノコング』物語の合間に挟まれたQRコードをスマホ等で読み取り、表示されたページから流れる音、音を聴いて謎を解いていく新感覚のミステリー小説。聴覚が加わることで、謎解きが一層面白くなるはず!

道尾秀介/著 講談社 2023年



『プロジェクト・ハイル・メアリー(上・下)』

塚田さん曰く「最初はカバーも見えないで読んでほしい!」本。真っ白な部屋の中、記憶を失った状態で目を覚ました主人公。わずかに蘇る記憶と知識を駆使し、少しずつ真実を導き出していきます。

アンディー・ウィアー/著 早川書房 2021年 小野田和子/訳



カフェで働く前は小学校の先生を務めていたという塚田さん。とても柔らかい雰囲気でありやすくゲームの説明をしていただきました。積極的に学習塾や企業とのイベントを行い、ボードゲームの魅力を広げていきます。

JELLY JELLY CAFE 大宮店店長 塚田 咲子さん